

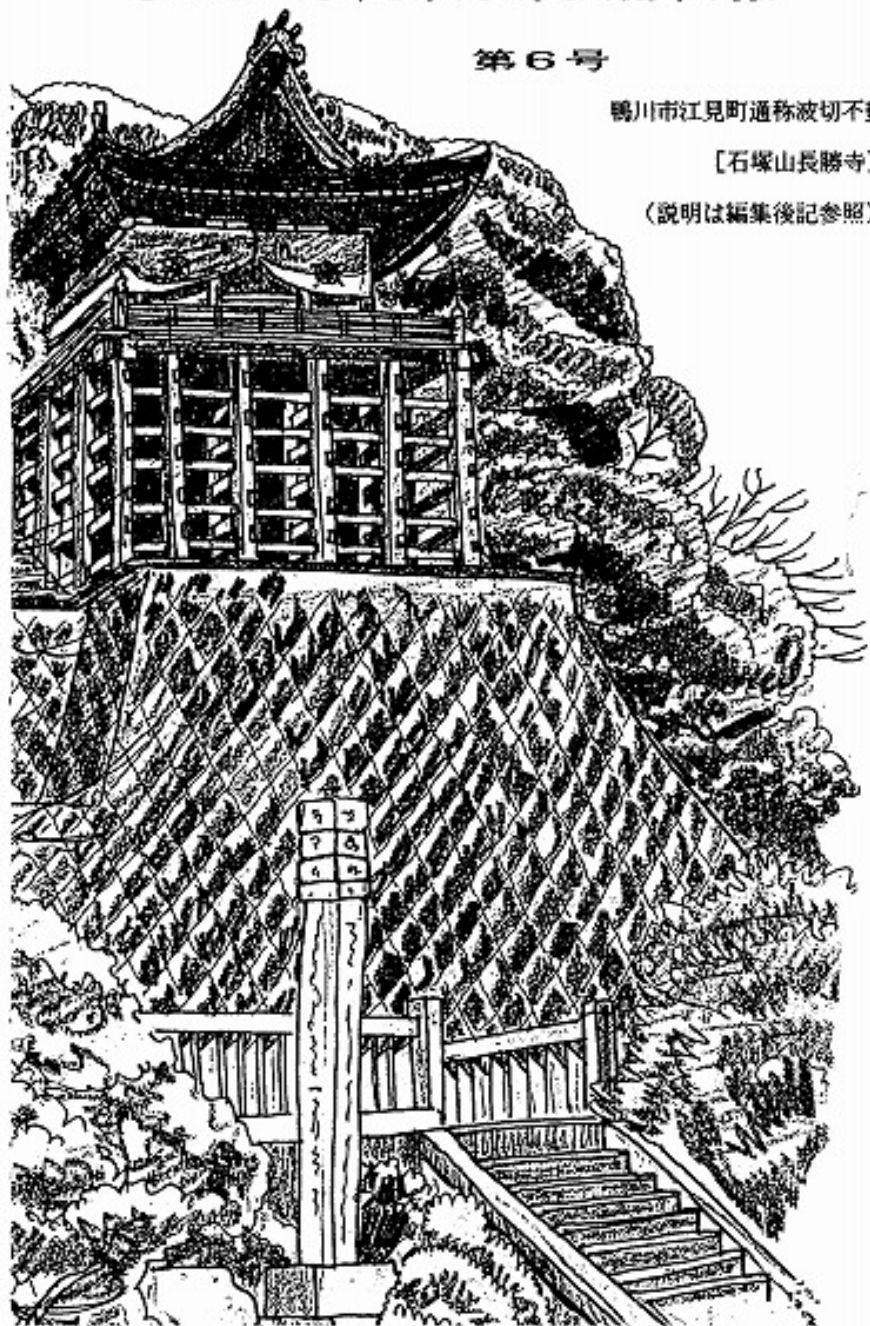
多賀工業会千葉県支部会報

第6号

鴨川市江見町通称波切不動

〔石塚山長勝寺〕

（説明は編集後記参照）



記憶力

支部長 山田泰雄（19機械）

人間の能力の中には判断力、理解力の他に記憶力があります。判断力理解力は多分に天性のものがある様ですが、記憶力となるとかなり技能的な所があるのではないかと考えられます。

昔、神社の境内や広場で大道芸人が巻紙に、周りの見物人から任意の数字を言ってもらって次々と書き、まるで円周率の値みたいにしてその巻紙を頭上に掲げ見物人に見える様にして自分は目をつぶってそれを読み上げ途中つかえる所があってもまず間違はずに終わる。そこで皆が感心している所で記憶術の本の売り込みにかかるというのがありました。

多少偏見ですが、昨今の学習塾と云うのもこれに似ていると云ったらお叱りを受けるでしょうが受験技術を授けると云う点では近いのではないのでしょうか。

しかし、よく考えて見ますと私の過去にも色々な事が思い出されます。

子供の頃には教育勅語と云う天皇のお言葉があって、そんなに長くなくて5分もあれば暗唱できる位でしたが、これを小学2、3年の頃に意味も分からずに覚えさせられました。小学校上級になると、仏教の伝来は「いちに、いちにと百濟より」つまり1212年（皇紀）と覚えていたものです。上級学校へ進につれ覚える事がやたらと多くなって覚え方を考える暇もなかったと言って良い位の状態でした。しかし段々と闇雲に暗記すると言うよりは何故そうなるかの理論を理解してゆく事が多くなっていったかと思えます。人によってかなりの個人差があるでしょうが何の苦勞もなしに暗記出来る方を見ると羨ましくなります。

仕事の上でも何かと忘れない様に出来ないかとノートのつけ方等も考えてみたりしたものです。然しながら記憶力の強いと云う事も会社にあっては生字引として重宝がられますが、友人、知人との個人の付き合いでは貸した金を何時までも覚えていたり、失敗を知ってのも味気ありません。

人間記憶力の他に忘却力も必要かもしれません。

余白を考える

長尾和愛（16歳）

80才過ぎの老先輩がクラブを思い切って振り、フェアウェイを元気に駆ける姿を見ていると、成る程我々は老人と称する人種も、未だまだ先は永く、これからの日常をいかに充実し、悔いのない余白をどう過ごすべきか、など考えこんでしまう。

と言う次第で、支部長から古希という節目を通り越した感想などをなにか、と仰せつかったのであるが、今の長寿社会では70才位はまだ老人の駆け出しといったところか。ただ、我が工業会の名簿などでは、とかくトップの方に名前が出る立場から、長老面の戯言を少し綴らせていただく。

非常勤の役も全て退き、漸くオール休日と解放された身軽さから、先ず身の溜りに溜った雑物の整理を順次片付け、これからの余白をいかに有意義なものにするか等、じっくり一年の計を立てようとしていた年初、以前から是非にと誘われていたゲートボールを始める羽目になった。足掛け4年、町の老人会長を押し付けられ、市の老連とか支部の主催するGB大会に顔を出さず関係で無下にも断れず、また、少ない運動量でも健康のためになり、多くの仲間との日常的な触れ合いが出来れば、といった本音もあった。ところがドッコイ、「GBこそ生き甲斐」の連中ばかり。週休2日は水・日曜日。火・木曜が一日。月・金・土曜日が半日といった日取り。よくもまあ、長年続いたものだと感心してみたが今更引込めず、只今真っ黒になって頑張っているところである。

最近では、家内、「明日はBG会社の方へご出勤ですか。」とくる。実のところ、鉄道工作協会という現役・OB併せて会員1万人弱の、嘗ての勤務団体の会合が結構あり、新橋の事務所へ、多い時は週2回位出掛けねばならず、おまけに、今年は公民館主催の「印旛沼講座・見て歩きの会」が始まり、来年2月末までの殆どの土曜日を、案内役に狩り出されるわけで、とてもとてもGBオンリーなどはゆけそうにない。

さて結論。新しいこの町に移り住んで10年余。千葉都民暮らしを終わってしみじみ思うことは、各個人それぞれの趣味を活かし、読書に、音楽鑑賞に、或はスポーツにと毎日をエンジョイするのも結構ではあるが、地域社会の中で孤立せず、友を求め人と和しより豊かに余白を彩ってゆくことも是非必要なのではなかろうか、と。

いいかげんな人生

吉田敏夫（32学電）

吼洋寮3年の凝縮した、青春の追憶はもう35年前のことになってしまった。還暦を目前にして、この50有余年の生き方をふりかえると複雑な心境になる。人生90年時代、まあこれからの出発点として、中間決算のつもりで片ひじはらずに、ふりかえり、今後の指針を見いだそうと、ふと独り静に、タバコ（今はあまり好まれない）をふかす機会が多くなった。吼洋寮で同僚が麻雀のジャラジャラに興ずるのに反発して、囲碁の石を握り（今も麻雀は出来ない・・・する積りが無い）爾来、会社生活、現在と眼をみては、時々仕事をさぼり、石を握っている。能はなくとも、好きこそもののなんとかで、お情け四段ということになって、地方では結構巾がきく。会社生活（コンピューター関連）25年で終止符、今書籍、文具、事務用品販売の自営業に転身、数人の従業員と共に、「地方文化の興隆発展」「青少年健全育成に貢献」を旗印にタクトを振っている毎日です。話を碁にもどしますが、ご存知の通り、碁の進展の中には攻め、防御、生と死があり、最後には地を多く囲った方が勝のゲームです。「殺す」とか「死ぬ」とか、一般社会では禁句の言葉が、平気で語られるのが碁の世界です。一局の流れの中に、人生の一端をのぞく様な時があります。相方が攻め合い、攻防の秘術を尽くして、部分的な互格に展開して次に移る場合に、「いいかげん」な別れと評価します。一石の働きが最善を尽くし、相互にうまくかみ合って、形成される結果がこうなるわけです。

会社と言う大きな盤上で、変化する状況の中で、私と言う一個の生き物の働きもその様なものなのかなあと言う気持になる時があります。打たれた石はもう戻せない、過ぎた一日はもう帰らない、であれば今日この一日、明日の一日を大切にしなければならないその働きも、その状況に応じて最善でありたい。その結果は「いいかげんな」別れであろう。ソ連の政変、日本の証券、金融界の乱れ、世界経済の中の日本の立場、余りにも大きな激動の中にあって、私の様な小さな一個の人間の働きは余りにも小さい。しかしながら一石の働きが、一局を左右するのと同じ様に、私の生き方、働き方がなんらかの影響を及ぼすことがありうると信じて、一日一日を大事に生きてゆきたい。

青雲の志を抱いて「青春清き阿武が丘」の多賀で学び、志を同じうして、各方面にて

活躍の同窓が、折りにふれ、時に機を同じうして集い、肝胆相照らすのは大切なことではないでしょうか。私は私なりに「いいかげんな人生」になる様一層努力する覚悟で千葉県支部会員の皆様のご健勝を、会の発展を祈念して筆をおきます。

理工系私立大学に勤めて 明石和夫（22金属）

私は昭和63年4月から野田市（東武野田線運河駅すぐそば）にある東京理科大学理工学部で勤めております。国立大から私大に移り最初はいろいろな違いに戸惑いましたが何とかの上にも3年で、大分慣れて学生にも多少の余裕を以て接することができるようになりました。

東京理科大学（以下理科大と略します）は、昔の物理学校時代の伝統をいまでも守って、学生の教育に厳しい大学として名が通っております。

例えば私が籍を置いている工業化学科では、特に理科大のOBが学生を厳しく仕付けております。それに比べて私のような外様はどうしても学生に甘くなりがちです。

平均してうまくバランスがとれているのかもしれませんが、私も前の大学の時よりも、遙かに丁寧に学生に教えるようになりました。

最近高校でも予備校でも、理科大に入ると遊べない、一年留年当たり前という風評一単なる風評ではなく、事実ですが一専らで、学生達から敬遠されがちであると聞きました。そのため受験生の数がこのところ漸減しているのは事実で、私大にとっては大問題なのですが、理科大から厳しさを無くしてしまったら何が残るでしょうか。数多い学生の中には勿論例外もありますが、総じて鍛えがいのある学生達だといえます。

卒業論文のための研究など、せっぱ詰まると思わぬ実力を発揮してくれます。

マザコンの話題がよくマスコミなどで取り上げられますが、男の子は多かれ少なかれその傾向があでしょう。極端な例だとは思いますが、最近余りの事に手を焼きました。

家から外に自分で電話が掛けられないのです。すべてお母さんが取り仕切っているためです。まともな友達付き合いができません。就職してもよくて一週間持てばよいと思っていたのですが、初日から出社しませんでした。留年せずストレートに卒業出来た学生なのですが、本人の口から感謝の言葉を聞いたことがありませんでした。

行事報告

1：第18回総会開催

日 時 平成3年6月23日（日）

場 所 フローラ西船

本部より菊地理事長・東京支部渡辺益男副支部長・水戸勝田支部副幹事長・静岡支部高田幹事長の御出席を戴き、支部会員の34名の方々が出席され行われました。

総会は議案書に基づいて行われ審議可決終了し、続いて塚越要夫氏（25電）により【“俳句への誘い”】と言う演題で講演が行われました。

終了後懇親会に入り、俳句の投句会を行い全員で互選を致しました。

非常に楽しい雰囲気の中で行われ再会を期して散会いたしました。（投句は別掲）

2：第3回ゴルフコンペ開催

日 時 平成3年7月23日（火）

場 所 千葉スプリングスカントリークラブ

時期的に暑かったので参加者が前回より減ったが全員和気あいあいの内に楽しくプレーを行いました。

優 勝 荒井康可君（48学子）

準優勝 陣野友久君（37工化）

3：はとバスによる都内観光

日 時 平成3年10月10日（体育の日）

コース 山手 下町一日コース

4：年末異業種懇談会（兼忘年会）の開催を予定し、

場 所・

日 時・

費 用・等

及び運営方法は、目下鋭意検討中です。

ご意見がありましたら支部長まで連絡戴ければ有り難いと思っています。

入 支部総会後の懇親会において催された 入 選
 選 俳句の会で投句された力作の数々です。 選 者
 三 席 二 席 選

梅 あ 西 青 ま ク 久 さ つ あ 同 桜 捨 梅 鶺 べ 柴 舟 妻 あ
 雨 じ 船 蛙 な ラ ヲ み ゆ じ 窓 草 て 雨 鶺 べ 陽 つ の り が
 冷 さ や 雨 び ス の だ ぞ さ の 顔 青 猫 や 尾 の 寝 の ぐ け と
 え い 俳 矢 や 会 友 れ ら い の を 春 麦 し の 寝 の ぐ け と
 の や 句 に と 俳 句 会 病 に は つ 合 わ し な 秋 や た た 鳩 ろ 賀 陽
 西 赤 業 の れ 想 て た な め に せ ら な き 薔 岩 山 女 屋 下 が つ ど め き こ
 船 青 緑 の ク み い も り や む り き つ ゆ 晴 れ い る 丘 つ る う
 橋 人 の ラ が 集 れ 案 兄 想 し つ 同 窓 間 小 小 岡
 に の 道 ス く い た ず う 同 窓 会 会 三 三 高 高 高 小 小 岡
 友 の 会 くれ けり 窓 会 会 幣 幣 松 松 松 森 林 林 安
 の 顔 くれ けり 窓 会 会 幣 幣 松 松 松 森 林 林 安
 顔 くれ けり 窓 会 会 幣 幣 松 松 松 森 林 林 安
 菊 水 水 水 静 千 齋 山 山 山 三 三 高 高 高 小 小 岡
 地 戸 戸 戸 岡 葉 齋 山 山 山 三 三 高 高 高 小 小 岡
 勝 勝 勝 高 林 林 林 本 本 本 幣 幣 松 松 松 森 林 林 安
 理 田 田 田 高 林 林 林 本 本 本 幣 幣 松 松 松 森 林 林 安
 事 田 田 田 高 林 林 林 本 本 本 幣 幣 松 松 松 森 林 林 安
 長 関 関 関

【選者寸評】

入
選
一
席

つたない講演の直後
出席者に投句して戴
きました。

大変突然だったので

花 白 新 白 ま 振 お 重 五 青 ザ 秋 老 モ 葛 戸 迷 う わ れ た 方 も お
葛 鶯 緑 髪 ど り 祭 心 月 イ リ あ い ！ 蒲 ら れ た と お も い ま す
蒲 の に と ご 仰 り を 雨 ン ガ か た ッ 田 が 、 然 し 立 派 な 作 品
水 青 薫 は し ぐ の き や コ ニ ね 犬 ア の が 多 く ま 感 心 し ま し
面 田 る げ に 夜 お き や 新 の 冬 ル 火 た 。
に に 車 に じ 目 囉 広 さ し ヒ 山 毛 ト の た だ 、 無 季 の 俳 句 や
高 舞 窓 梅 っ に し げ し き ゲ に 抜 の 山 破 調 の 俳 句 や (俳 詩
く う は 雨 と も 耳 た き 家 に 発 き 余 の 的 な も の を 含 み)
揃 や 春 ふ き 白 に る 友 に 孫 つ つ 韻 風 季 重 な り の 句 が あ り
い 梅 の る き き 子 宴 は 迷 ふ 前 つ う お ま し た 。
け 雨 風 同 い 桜 等 か 逝 い れ わ い れ そ 若 し 基 礎 か ら 学 ぶ
り し 窓 る 花 走 な き 来 よ が つ し れ の で し た ら [季 語]
ぐ 会 ホ る に ぬ ろ 庭 く き け を 一 つ を 守 ら れ 事
れ ト け こ に し 冷 り を お 勧 め 致 し ま す 。
ト り び む 酒 特 選 の 選 者 選 の 作 品
ギ ぬ か は 、 奥 様 に 対 す る 、
ス な 愛 情 が 溢 れ 、 紫 陽 花
松 吉 吉 吉 斎 富 富 高 不 不 不 不 不 塚 塚 の 青 が 、 鮮 明 で 強 烈
山 田 田 田 藤 田 田 萩 明 明 明 明 明 越 越 な 秀 句 で す 。

雄

尚上記人選一席二席三席は、全員で互選した結果きまったものです。

霧	霧	溪	山	乳	秋	牛	穂	野	男	リ	ダ	ダ	舞	落	水	秋	親	喜
澳	湧	流	女	牛	霖	飼	芒	天	鹿	フ	ム	ム	昔	人	引	の	族	寿
切	き	の	宿	の	や	ひ	や	風	川	ト	ゲ	満	へ	の	草	蜂	一	の
双	て	残	カ	の	蓮	の	頬	呂	紅	ゆ	ー	ち	震	末	見	記	党	座
マ	牧	像	ラ	そ	墨	芒	寄	の	葉	く	ト	て	へ	裔	る	念	爽	に
た	場	木	オ	り	刷	手	せ	あ	待	誕	重	越	が	ば	格	写	け	鬼
ち	の	の	ケ	寄	け	折	合	た	ち	め	く	し	ち	な	子	真	く	灯
ま	白	葉	宿	り	る	り	へ	り	い	に	じ	の	る	葛	に	列	杯	つ
ち	さ	山	に	来	牧	て	る	横	ゐ	に	を	日	日	の	鼻	乱	か	添
天	極	女	な	る	の	来	母	横	る	萩	の	り	々	の	花	つ	す	え
地	ま	か	に	牧	牛	た	子	切	水	の	り	々	の	花	つ	す	は	え
呼	れ	な	に	の	り	り	牛	る	奔	花	台	赤	射	け	て	し	ら	れ
応	り	け	り	秋	け	り	の	の	の	散	風	蜻	せ	る		り	し	
せ								川	し									
り																		

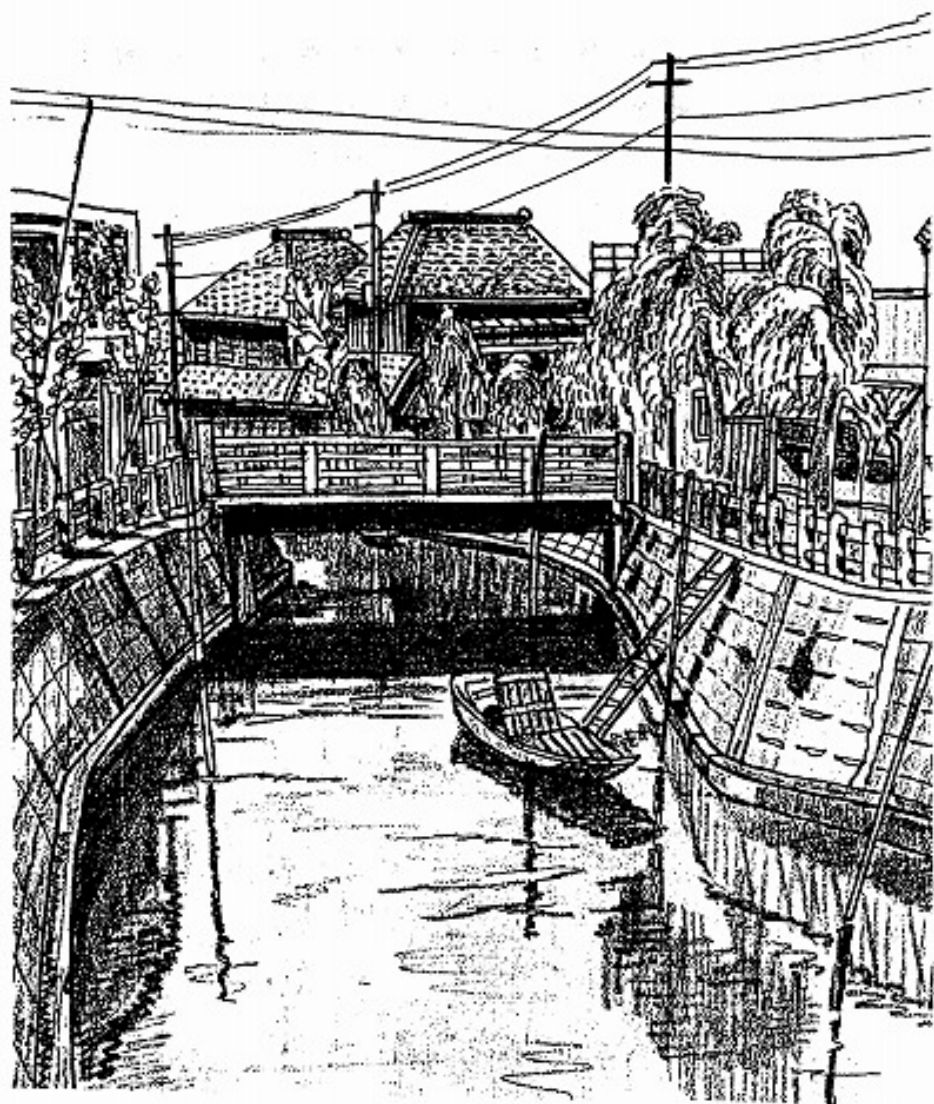
塚越としを

佐原市内を流れる小野川で

利根川に注いでいます。

佐原ばやしがきこえてくらあ！

を参照してください。



※ 佐原ばやしが聞こえてくらあ 1 三幣正人（24歳）

利根川べりの佐原市は、近世利根川舟運の河港として賑わった水郷情緒に溢れた静かな街である。

街の東部地方の香取には鹿島神宮（茨城県）とともに我が国の古社の一つ香取神宮が鎮座し鎌倉初期、源頼朝の神領寄進状にも「佐原」の名が残っているから歴史は古い。

一寸余談になるが、現在千葉県内の「国宝」は、三つあると記憶している。

市川市の正中山法華経寺の「立正安国論（りっしょうあんこくろん）」と「観心本尊抄（かんじんほんぞんしょう）」の日蓮真筆の裏文書の二つと、香取神宮の「海獣葡萄鏡（かいじゅうぶどうきょう）」で錆上がりも鮮やかな円鏡で奈良正倉院にこれと同寸・同形のもが一面伝えられて居ると言う。

水ぎはの真菰（まこも）に混じってアヤメの咲く初夏の風情や水生植物園・十六島の発光するホタルエビの発生地は国の天然記念物に指定されたが今では殆ど見られず幻し化しているが、加藤洲十二橋・佐原の釣りは「佐原」の名を高めている。

この地方で「佐原」を中心に延享年間（1744-1748）頃から俳諧の文化活動が表面化してくる。当時江戸から来遊した2世青蛾が地元の青監らとともに活発に活躍した。文化3年（1806）更に江戸から葛斎今泉恒丸を地元の素封家で俳人青野某が招き師事した。佐原に移住した恒丸を文化3年（1806）12月に小林一茶が訪問してつぎの句を残している

雪とけや 門に雀乃 十五日 一茶 土筆焚く 香におもひ出や すみだ川 葛斎

江戸中期の地理学者伊能忠敬（いのうただたか）は、宝暦12年（1762）佐原の酒造家の旧家の養子となった。衰運の伊能家を再興し村民に推されて名主となり公益の為に尽力した。この間・算術・測量・天文学等を学んだ。

寛政10年（1798）：我が国で初めて金星の屋間の子午線通過を実測。

寛政12年（1800）：幕府天文方高橋至時（よしとき）の助言で幕府の許可を得て蝦夷地（北海道）南海岸の測量を行いその後約18年間全国の測量を終えたが地図未完のうちに江戸で没した。文政4年（1821）：没後4年門弟や、幕府測量所の協力で

【大日本沿海輿地全図】として実を結んだ。【伊能図】と呼ばれ正確なことは最近まで我が国の地図作成の基準をなしていたほどである。

伊能忠敬の旧宅の前を小河が流れている。その川が【小野川】とよばれ利根川に注いでいる。（このイラストはその箇所を描写している）その場所を見ると或る感慨が湧いてくる。飛騨高山は春の日枝神社・秋を彩る八幡神社の祭りで著明だ。飛騨高山の匠が技を凝らした華麗な屋台が町中に繰り出されるからだ。

それに比較して佐原の夏祭り・秋祭りを見学する人は少ないようだ。

曜日に関係なく夏祭りは7月10-12日秋祭りは10月25日-27日に行われる。

夏祭りは、八坂神社の祭礼で【幣台】と称する山車の上でもとは近隣農家の長男達が芸座連をくみ【佐原ばやし】を演奏する。

秋祭りは、諏訪神社の祭礼で【山車】と【手古舞踊り】と【佐原ばやし】が聞かれる【山車】に乗ったはやし方により【佐原ばやし】が演奏される（享保頃が起源と言う）“の”の字廻しの曲引きはまさに迫力満点である。共に「県指定無形文化財」である。

最初見物したときは、高い【山車】を狭い路地を引く子供達とおはやしにつられて、あとをついていった。一見【山車】は悠長に進むが、先達は、真剣そのものだった。

特に擦れ違う時などは大変だ。そのうち【山車】が留まる。すると子供達が待ってましたとばかり踊りまくる。きまりがあるような、無いような踊り方だが見ていて無性に楽しい。【手古舞踊り】というのだろう。お囃子は一層激しくなる。野口雨情作詩・中山晋平作曲のものが多いから馴染み深く”心が豊になる”一度見物されたいかが。

【佐原】の隣が東庄町で昔の笹川と言ったほうが分かり良い。周知の『天保水滸傳』は天保15年（1884）の笹川繁蔵と飯岡助五郎の抗争である。詳細は、省略するが浪曲師二代目玉川勝太郎の名調子によって浪曲シナリオ作家正岡 容の『天保水滸傳』で一躍有名になった。

利根の川風袂に入れて 月に神さす高瀬舟 人目関の戸叩くは川の水にせかれる
くいな鳥 恋の八月 大利根月夜 佐原囃子の音も湧えわたり・・・
されば天保12年・・・飯岡 笹川しのぎを削る 伝え伝えし 水滸傳・・・

平成3年度 年会費納入者氏名(敬称略) 8月31日現在

卒年度 氏名

- 16 田中康夫 前田晴朗 長尾和愛 杉本喜久雄 渡辺義治 原田正夫 大西敏之
- 17 桧山良平 今村 勝 塚原 重 市東志郎(久米三雄) 地曳一夫 林 詮
(羽鳥忠雄)
- 18 板倉 正 加藤清明 石井弥二郎(金田利徳)
- 19 小林秀夫 大山 巖(小久保 勇)(大木一郎)木植和夫) 木村一夫 萩谷 進
佐々木秀 柴 敏夫 山田泰雄
- 20 横田正一 白鳥忠雄 嶋田 清 鈴木友生 斎藤勝夫
- 22 (川崎幹夫)(御園生計夫)(伊藤勝衛) 額賀利厚 福地敏郎 高山和夫 佐藤 豊
明石和夫 大木政虎 安達恵三郎 山本芳正 関 誠治 並木 靖
- 23 高島謙一 大川栄一 岡村哲夫 海野政之助 高橋博太 川上昭二 清宮文雄
矢口三郎 尾張文之助 岩下 晃(金沢 昇) 松平静和(桜井 宏) 大久保勝躬
平嶋 勇
- 24 塚田正雄 榊原信行 栗谷川文司 草刈 董 三幣正人
- 25 大塚恒男 小河 孝 山田秀男 野田茂信 高松恒夫 森 勇一 宮島正弘
小林喬夫 塚越要夫
- 26 熊谷達夫(飛田良雄) 川上 明 岡安孝捷
- 28 橋本武夫 根本茂雄 税所 裕 山田 允 飯田 弘 吉田栄一 吉田哲夫
- 29 大津正夫 大津勝男 北村 健 榊 陽
- 30 中野義正 木戸田松吉 目黒 久 住谷永夫 桧山良邦 石川安男
- 31 新田和夫 酒井健治 中川 洋 松本一夫 鈴木 了
- 32 段家文彦 石橋隆男 永山 哲 吉田破魔夫 檜山直孝 大和田武義
- 33 藤井徳彦 斎藤雄太郎
- 34 (黒沢一之) 芝山佑芳 須田照男 根本行康 館 梅里
- 35 (相沢浩司) 高橋 清^V

- 36 関谷 廣 久野 清
- 37 古橋弘治 遠藤芳勝 佐藤哲雄 陣野友久 川島浩暉 富田宣吉 森川義久
- 38 根岸寿明 高見志修 高萩隆司 綿引貞男
- 40 佐藤道夫 望月晴雄 千代和彦 田村勝昭 川野辺 健
- 41 渡部昭夫 木村 保 柴 勇 黒川道生 仲田光雄 渡辺 穰
- 42 浜野 誠 井沢勝美 松座世喜男
- 43 岡田猛彦 杉浦武夫 (御園 誠)
- 44 青野 宏 梅田毅明 日置和夫 宮田敏夫
- 45 時岡誠剛
- 46 加藤清一 笹倉隆親 高橋利男 兼登良勝 深山泰一
- 47 斎藤雅浩 金坂 潤
- 48 荒井康司 西川洋治
- 51 馬目正雪
- 52 田中 隆 倉川久男
- 54 坂田昭夫 柴森克之
- 57 (吉田 潤)
- 58 八城勇一 深井千秋
- 60 中野倫之 神田 建
- 61 (判野 晃)
- 62 中村昌巳 小野間 清 秋葉健司
- 63 菅次公夫 徳求敬一 (鳥飼 誠 原 啓介 都築宏昌 石川善文 佐藤敏哉
- 平成1 山下直之 宇佐見直之 (長谷川晃久) 石橋 忠 成島和男 辰見正弘
秋葉泰男
- 平成2 石川 明 (小野間 隆) 丸山尚正 高橋栄次 押田正樹 (佐藤広治)
- 平成3 寺西浩之 笠原康嗣 瀨古眞義 (船川 勲)
- 旧職員 三好洋子 有難うございました。 以上200名

編集後記

訃報 斎藤 泰治氏 (17金)

日比野正彦氏 (23電) 3名の方が御逝去されました。

相馬 秀雄氏 (33電)

衷心より哀悼の意を表し、御冥福をお祈り申し上げます。

1：表紙及び文中のイラストは中堅作家・鈴木 昭氏に毎回お願い致しております独特

の手法と千葉県に関する造詣が深く様々な角度から快い作品を載せております。

前回は【長南町の笠森寺の舞台造り】と【丸山町石堂寺の本堂並びに多宝塔】でし

たので【石堂寺と喜連川公方(きずれがわくぼう)】の関連についてを埋め草とし

て考えておりましたが、今回の表紙は鴨川市江見の彼切不動【石塚山長勝寺】です

この地方は頼朝に関する伝説の多いところですよ。治承4年(1180)相州石橋山

の合戦で破れ安房に逃れた頼朝が反旗を翻す長狭六郎常伴の反撃にあい難を避けた

【仁右衛門島(にえもんじま)】や【一戦場】が残っており【石塚山長勝寺】から

鎌倉に通じる間道があると言われております。

詳細をお知りの方の投稿を期待致しております。

2：文中のイラストは佐原の市中を流れ利根川に注いでおります【小野川】です。

【佐原ばやし】の中に触れておきました。文献類は全て省略させていただきます。

3：【異業種懇談会】についてご意見がございましたらお聞かせください。

然し忘年会を兼ねて開催する予定でおります。

4：前回の総会の際、突然句会を催しました。

立派な句が多く塚越氏も驚いていました。次回総会時の催事も計画中です。今後、

【お定まり】でないものをと執行部は考えております。

皆様のお知恵をおきかせください。

5：数多くの投稿をお待ちしております。どんな傾向のものでも歓迎いたします。

千葉県各地に居住する会員の郷土に関する「歴史・行事等」等の原稿もお待ちして

おります。

文責 幹事長 三幣 正人